

# 八千代こども親善大使がバンコク



八千代こども親善大使一行が1月17日～24日に7泊8日の日程で、タイ王国バンコク都を訪問しました。八千代市とタイ王国バンコク都は、平成元年からこども親善大使による相互の交流を続けており、八千代市からの訪問は4年ぶりとなりました。この特集のお問い合わせはシティプロモーション課 電話421-6703へ



## 12人のこども親善大使を派遣

今年度のこども親善大使は、市内の小学5年生と中学2年生を対象に実施した国際平和作文コンクールの応募者2,989人の中から選ばれた小学生7人と中学生5人です。昨年9月から、事前研修でタイについて調べたり、タイ語の学習に取り組むなど、準備を進めてきましたが、実際に訪問してみると、想像以上に多くの経験をすることができました。

## 表敬訪問などを通じて互いの国への理解を深めました

バンコク都知事や都議会議長への表敬訪問では、タイの義務教育で力を入れていることや大切にしていること、タイの人が笑顔の理由などを質問し、タイ王国の政策や教育について学びました。ナー・ルアング校では、日

本とタイの国旗を手にした児童・生徒に歓迎を受け、ムエタイ、音楽、美術、料理などさまざまな授業を体験。初めて見る楽器や料理作りなどタイの児童・生徒に教わりながら、交流を通してお互いの国への理解を深めることができました。

交流会では、日本に関するクイズやソーラン節を披露し、会場は大いに盛り上がりしました。このほかにも、世界で活躍している在タイの日本企業を訪問し、海外進出の現状やタイ情勢の理解を深めました。

## ホームステイで体験したタイでの生活

親善大使は3泊4日のホームステイも経験し、家族の一員としてタイの生活に触れる貴重な体験もできました。慣れない習慣や言葉の違いに戸惑いもありましたが、温かく迎え

てくれたホストファミリーとの心の触れ合いを通じて、絆を深められました。

最後の夜には、さよならパーティが催され、昨年、バンコクから八千代を訪問した親善大使の子どもらと、交流の証として歌い継がれてきた「心に花を」を歌い、互いに別れを惜しみました。

2月18日に開催された帰国報告会では、お互いの文化を知って認め合うことの大切さを、周囲の人たちにも伝えていきたいと力強く語る姿がありました。勇気を持って新しいことに挑戦し、仲間と一緒に広い視野で日本や世界について考える機会を得て、大きく成長した親善大使たち。ジェスチャーなどで思いを伝えていくうちに、お互いを理解することができ、友情が芽生えました。こども親善大使を通じて日本とタイ王国に広がる友情の輪は、これからも広がり続けます。

### バンコク都ってどんなところ?



バンコク都はタイ王国最大の首都で、チャオプラヤー川河口の平地に位置しています。タイにおける政治、経済、文化の中心地となっており、豪華な装飾の寺院が点在しているほか、中心地には高層ビルや近代的なショッピングモールなどがあり、活気に満ち溢れています。一年を通じて気温が高く、雨季・雨季・乾季の3つの季節に分かれます。人口は、約547万人とされ、八千代市の約27倍です。

### ナー・ルアング校の子どもたちとの交流

伝統料理と一緒に作りました



楽器の演奏を教わりました

### 在タイ企業への訪問

工場見学を行いました



### 都知事・都議会への表敬訪問

積極的に質問しました



都議会議長訪問での記念写真

広告

広告